

巻・頭・言

# 成長戦略と技術士の役割

2014年の新年を迎え新たな一年が始まりました。今年はどうなるのか？ 国民にとって、技術士の皆様にとって良い一年になることを祈ります。

昨年は安倍政権が誕生し、アベノミクスと言われる大胆な経済対策が行われ、長い低迷期を過ごした我国の経済にとってもやっと光明が見え出して来た一年になったと思う。この経済好転を安定化させて力強い経済成長に結び付けるには第三の矢としての成長戦略が重要であるのは言うまでもない。

その戦略の要点としては、1)日本産業再興プラン、2)戦略市場創造プラン、3)国際展開戦略——の3つのアクションプランを示し、具体的な諸施策や成果目標を打ち出している。我が北海道に最も関わるであろう農林水産業分野では、「農林水産業を成長産業に」として以下のような目標が掲げられている。

- ・農林水産物・食品輸出額：現在の4,500億円→1兆円へ(2020年)
- ・6次産業市場規模：現在の10倍の10兆円へ
- ・農業農村全体の所得：今後10年間で倍増

また、「エネルギー産業を育成」として、再生可能エネルギーの導入、海洋資源を商業化、などの目標が並び、北海道の優位性を活かした成長の果実を道民並びに道内企業が得られる可能性が考えられる。

ただ、これらの目標を達成するためには、規制改革や財政的優遇対策を行っただけで達成できる訳ではなく、技術的なイノベーションとグローバル化による新たなフロンティアを作り出すことが求められている。

かつて北海道は新たな日本のフロンティアとしての役割を果たした時代があった。幕末から明治に掛

布村重樹(ぬのむら しげき)

技術士(建設/上下水道/総合技術監理部門)

北海道本部副本部長  
道南技術士委員会代表



けて、欧米の先進技術を積極的に見習い、導入し、改良し、我国の近代化に多くの足跡を残した技術者が多数存在した。この北海道で先進的な取り組みを試し、技術を確立させる取り組みがあったればこそ、我国が先進国の仲間入りを果たせたのである。

TPPの加盟問題もあり、現状のままでは我国の農林水産業の未来は決して明るくは無い。技術とマーケティングを融合させた今までに無い取り組みによる新たなイノベーションが必要であろう。

函館では、がごめ昆布や未利用海藻を産学官連携で地域ブランド化・新産業化して行く事業を行っている。その事業に私も関わって来たが、クラスター型6次産業化の事例として紹介する機会が増えていく。技術士として、取り組みと効果を体系化して論理展開していく作業を手伝っている。

これらの活動の一環で、先日シンガポールで行われた「oishi-JAPAN」に参加し、函館の海藻製品をPRして来た。日本製品に対しての信頼と北海道ブランドのイメージの良さを改めて肌と感じた3日間であった。北海道の農水産物はグローバル化の中でも十分に競争力を持つ素材となり得ると確信した。しかし、その実現のためには流通の高速化や鮮度保持、品質認証、機能性のエビデンスなどの技術が介在しなければならない分野が多数存在している。生産現場の効率化なども避けては通れない。これらは、科学技術の高度な応用能力を発揮できる絶好のフィールドではないだろうか。

新たな成長領域は異分野を跨いだ高度な課題解決能力が試される。技術士がイノベーターとなって活躍する新たなフロンティアになる事を祈りたい。